

まちの元気で日本を幸せにする！

～地域の元気創造プラン～

プロジェクト推進工程表

平成25年5月28日
新藤議員提出資料

「地域の元気創造プラン」プロジェクト推進工程表

ミッション

まちの元気で
日本を幸せにする！

ビジョン

- 地域のモノやチエを活かす
- ヒトや投資を呼び込む
- 新しい暮らしの土台を創る

アプローチ

- 自治体が産業、大学、地域金融機関、地域住民等と連携して、活性化に取り組む

プロジェクト1 地域経済イノベーションサイクル

「地域がその創意を発揮し民間資金を喚起する仕組み」

産学金官ラウンドテーブルを 全国各地で構築

～それぞれの強みを活かして連携～

- ・ 事業者 = 企業家精神・柔軟性
- ・ 地域金融機関 = 事業の目利き、事業継続のリスク・マネジメント
- ・ 自治体(国) = 立ち上げの初期投資支援(1回限り/呼び水)
- ・ 大学等 = ノウハウの蓄積(理論化・ケースメソッド化)

平成25年度

各地の推進体制づくりと先行実施

- ・ 地域金融機関の代表及び金融庁と推進体制を確認
- ・ ガイドラインの作成
- ・ 自治体及び地域金融機関向けに全国各地で説明会(金融庁と合同)
- ・ 地域経済循環創造事業交付金(先行実施約60事業)

先行事業による外部効果の検証(18事業)

- ・ 2倍の投資効果(国の交付金と同額の融資を喚起)
- ・ 2.2倍の雇用の創出(持続的な雇用の創出)
- ・ 地域課題の解決
 - ・ 廃棄物等の商品化
 - ・ 一次産品高付加価値化
 - ・ 地元資源活用にぎわい創出
 - ・ 流出資金域内還元

平成26年度

～事業化プロセスに応じた
きめ細かな支援策の構築～

全国各地で事業化促進

- ・ 起業家誘致・人材サイクル事業(アドバイザー等)
- ・ スタートアップ資金の支援
- ・ 地域活性化ファンド(仮称)の組成 等

「地域の元気創造プラン」プロジェクト推進工程表

プロジェクト2 民間活力の土台となる地域活性化インフラ・プロジェクト 「イノベーションで地域活性化を起こす」

分散型エネルギーインフラ

- ・地域資源の徹底活用
- ・ICTを活用した需給調整(スマートシティ)
- ・エネルギーの地産地消の推進(太陽光、小水力、木質チップ等、余熱活用(コジェネ))
- ・地域への資金還元(FITの活用等)
- ・災害時の自主電源確保

公共クラウド

- ・行政データのクラウド化
- ・オープンデータの活用
- ・行政データの公開で民間活性化(公開型)
- ・行政データを活用したシステムで民間事業者支援(民間事業支援型)

機能連携広域経営型

- ・新たな計画圏域の設定
- ・最適な共通インフラの整備
- ・医療、雇用、教育等の行政サービスの高度化・効率化
- ・圏域内への民間資本の導入(民間による事業化、コミュニティビジネスの推進)

平成25年度

プロジェクト候補地調査

エネルギー賦存量、需要予測、初期投資、事業収支 等

先行モデルの構築

公開型: 観光、防災
民間事業支援型: 介護支援サービス、動産担保 等

プロジェクトモデルの調査・検討

市町村の枠を超えた圏域全体の高度化
民間投資のフル活用の検討 等

平成26年度

事業化に着手

- ・対象地域の選定
- ・マスタープラン策定
- ・プロジェクト推進組織の構築

本格システムの構築・稼働

- ・公開型クラウドアプリケーション
～汎用的オープンデータ対応
- ・民間事業支援型
～一定の対象事業を選定のうえ先行構築

対象圏域の設定とプラン策定

- ・医療・雇用・教育等の分野において、人、モノ、金等の流れの強化のためのインフラを計画的整備